

面試験的研究中ナリ

以上ノ外十五馬力捲揚機械ヲ五十馬力ノモノト取替ヘ選炭機ニ「ローラークラッシュヤ」一臺ヲ増設シ坑道ノ掘進ニ伴ヒ坑内奥部唧筒ニ多少ノ變更ヲ加ヘタリ

峰地炭礦 石炭 位 置 福岡縣田川郡添田町外一村  
鐵業權者 藏 保

從來下風坑ノ一部ヲ人道坑ニ用ヒ來リシカ本年四月新ニ人道専用坑口ヲ開坑シ百六十七尺ニテ從來ノ人道卸ニ會シ九十二尺ノ煉瓦拱ヲ築造シ十二月始竣工セリ

次ニ大正三年中着手シタル小倉鐵道運炭線一坑積込場ニ設置ノ選炭機ハ本年二月竣工シ十一月使用ヲ開始ス又岩瀬坑ニモ選炭機一臺ヲ据付ケ本年三月ヨリ使用セリ二坑及岩瀬坑ニテハ伊原積込場ニ到ル運炭道路及棧橋工事ヲ昨年中着手セシカ本年道路竣成無極索道ヲ裝置シ十一月ヨリ運炭ヲ開始セリ

大峯炭礦 石炭 位 置 福岡縣田川郡添田町外一村  
鐵業權者 藏 保

從來ノ選炭ハ一般手選ニ依リシモ本年七月一坑ニ選炭機ヲ開設シ十月工事竣工シ使用セリ而シテ運炭ノ便宜ヲ計ルカ爲メ大正五年ニ於テ坑口ヨリ選炭機迄クリーパーヲ設置スル計畫ナリ

野田炭礦 石炭 位 置 福岡縣田川郡添田町  
鐵業權者 宮 城 犬 三

始メ本礦區全般ニ亘ル五尺層採掘ノ目的ヲ以テ大正三年十月着手セル第二坑本卸ノ開鑿ハ本年十月坑口ヨリ百十間ニテ着炭シ年末百十八間餘ヲ進工今後深部ニ向テ約五百五十間坑道ヲ延長シ大正五年一月第一片磐ヲ施設スル豫定ニシテ各片磐ノ距離ヲ三十間トシ長壁式採掘ヲ行ヒ大

正五年六月頃ニ至レハ毎日ノ出炭高百八十噸六年一月以降毎日三百噸以上ヲ出スヘキ見込ナリ而シテ現今蒸汽鐵管ヲ通スル排氣竪坑(約五間ノ深サニシテ古洞ヲ利用仕經)ハ將來ノ操業上到底通氣ノ完全ヲ期スルコト能ハサルヲ以テ本年十一月該本卸坑口ヨリ東方約六十間ノ箇所ニ上風竪坑(長十五尺幅十三尺ニシテ深サ一)開鑿ニ着手シタルモ事業上ノ都合ニ依リ二間半ヲ掘鑿シタルノミニ一時之ヲ中止セリ然トモ大正五年一月捲揚機械ノ設置工事完成スルヲ待チ該開鑿ヲ續行シテ四月中竣成セシムヘキ豫定ニシテ其曉ニ於テハ之ニ蒸汽鐵管ヲ通シ第二坑操業中ノ通氣ニ遺憾ナカラシムル計畫ナリ

尙本年本坑ニ「ランカシャ」式汽罐(長三十呎三三八馬力)一基ヲ増設シ二月ヨリ使用ヲ開始セリ而シテ第二坑ニ於ケル事業ノ擴張ニ依リ同坑ニ既設ノ「ランカシャ」式汽罐ト並列シテ更ニ「ランカシャ」式汽罐(長三十呎)一基増設及十時兩汽筒捲揚機一臺据付ノ豫定ニシテ共ニ五年一月中ニ完

成セシムル豫定ナリトス

方城炭坑 石炭 位 置 福岡縣田川郡神田村外一村  
鐵業權者 三 合 資 會 社

大正三年十二月瓦斯爆發ノ爲メ多大ノ損害ヲ蒙リシ本炭礦ハ爾來銳意復舊工事ニ努メ五月下旬ヨリ一部採炭ヲ開始シ九月下旬坑内諸般ノ設備殆ント復舊スルニ至リ漸次出炭増加シテ年末ニ於テハ殆ント當時ニ復シタルモ全年ヲ通シテノ出炭量ハ該變災ノ爲メ著シキ減少ヲ來シ前年ニ比シ殆ント半減ノ有様ナリ斯ノ如ク事業上ノ打撃頗ル大ナルモノアルニ拘ハラヌ復舊事業ノ傍ラ尙各種擴張の施設ヲ爲シ成績ノ見ルヘキモノナシトセス大正二年五月以來繼續施工中ノ第一



第二兩斜坑開鑿工事ハ本年ニ於テ第一坑ハ三千餘呎第二坑ハ二千八百餘呎ヲ掘鑿シテ年末ノ總延長第一坑三、三四六呎第二坑ハ三、一二三呎ニ達シ今後一箇年半ニシテ着炭スルニ至ルヘシ又從來ノ曳馬ヲ廢シ運搬力ノ増加ト其系統ヲ一新スルノ目的ヲ以テ下風坑底第三新又卸ニ到ルノ間並ニ大山卸右一片ニ「エンドレス」機ヲ設置セントシ先ツ本年秋冬ノ交其坑道ノ改修開鑿ニ着手シ大正五年四月二坑道ノ改修ヲ了ヘ大正七年開鑿坑道完成ノ豫定ナリ又本年五月三十馬力電氣捲揚機械一臺ヲ設置シ更ニ坑内運搬ノ便ヲ増セリ尙近時諸設備ノ漸ク充實スルニ從ヒ從來ノ千「キロワット」ニテハ電力ニ不足ヲ感シ來リシヲ以テ更ニ千「キロワット」ノ發電機ヲ増設スルコト、シ本年十月着手シ大正五年五月末落成ノ豫定ナリ

赤池炭礦 石炭 鑛業權者 福岡縣田川郡神田村外二村 明治鑛業株式會社

新斜坑々内運搬ノ爲メ從來舊坑用曳揚機械ヲ兼用シテ同坑々内運搬上ノ利便ヲ増ス爲メ專用ノ双汽笛汽機(汽笛内徑二十吋馬力四七〇)一臺ヲ新設シ本年末ニ完成セリ而シテ同坑々内排水ニハ電力ヲ使用スルノ計畫中ニ屬シ前年來施行中ノ新坑開鑿工事ハ本卸及連卸共岩石掘進四百五十間ニテ着炭シ尙約百間ヲ掘進セリ尙本年中新設廢止ノ汽罐左ノ如シ

新設汽罐

徑七呎、ランカシヤ一汽罐三臺 馬力一臺ニ付一一二馬力

廢止汽罐

徑八呎、ランカシヤ一汽罐二基 馬力一臺ニ付一一九馬力

岩屋炭礦 石炭 鑛業權者 佐賀縣東松浦郡木村外二村 貝島鑛業株式會社

大正二年來施工中ノ第二坑開鑿工事ハ本年三月坑道百九十四間ニシテ三尺炭層ニ到着セリ而シテ本年第一坑ト第二坑トノ排氣聯絡坑開鑿シ本年四月貫通セシヲ以テ第二坑ノ排氣坑口ニ「ギヤベル」式扇風機一臺(排氣量十五萬立方尺)ヲ設置シ之カ運轉用トシテ横置式單汽笛汽機一臺(五十二馬力)ヲ据付ケ尙大正五年ニ於テ該扇風機用豫備トシテ原動汽機一臺増設ノ豫定ナリ次ニ又本年「ランカシヤ」式汽罐一基ヲ据付ケ且坑内運搬用豫備トシテ第一坑内ニ五十馬力電氣捲揚機械ヲ増設シ納屋、工場、學校其他諸種ノ建築ヲ營ミ大正五年ニ於テハ發電所煙突一基増築ノ豫定ナリ

相知炭坑 鑛業權者 佐賀縣東松浦郡相知村 三菱會社

從來稼行セサリシ三尺層ト五尺層トノ中間ニアル一枚物採掘ノ目的ヲ以テ大正三年五尺第一卸及第二卸ヨリ進掘ヲ初メタルカ本年前者ハ四百四十尺後者ハ二百二十尺ヲ開鑿シ又昨年三月上層炭層坑ハ截炭機ヲ運用採炭スル目的ヲ以テ斜坑ノ開鑿ニ着手シ同年末着炭セシ斜坑開鑿工事ハ本年末ニ於テ本卸及排氣坑共各二百間ヲ掘進シタルカ目下炭況不振ノ爲之カ採掘ヲ控ヘ一ニ坑道ノ進行ヲ計レリ

從來本坑内主要坑道ハ一條ノ坑道ヲ區分シ通風ニ備ヘ居リシカ採掘面積擴大ト變災豫防上二條ノ主要風道ヲ設クル必要ヲ感シ第一又卸左側二十間ヲ隔テ、平行ニ進行シ上部ニ排氣堅坑ニ至ル凡ソ五百間ノ排氣坑道ヲ設クルノ目的ヲ以テ本年十月同時ニ三箇所ヨリ起工シ本年末ニ百二



十間ヲ進捗セリ

坑内第一卸方面湧水排除ノ爲メ第一卸左十一片ニ鑿孔ヲ鑿チ第一卸全部ノ湧水ヲ五尺層ニ集ムルコト、シ同所ニ大水溜ヲ設置シ本年四月四十二馬力電動タービン唧筒ニ臺ノ据付ケニ着手シ同五月落成運轉ヲ開始シ第一卸及五尺第一卸ノ溜水全部ハ此唧筒ニヨリテ堅坑水溜ニ押揚ルコト、ナレリ

大正三年基礎工事ヲ了ヘタル選炭機増設工事ハ本年二月乾式部ノ上家落成シ直ニ機械ノ据付ニ着手六月其半部落成使用ヲ始メ殘部モ年末完成セリ而シテ本工事ト相俟テ大正三年末選炭機用機檢復線用長百七十五間建造ヲ起工シ本年三月落成新選炭機用ニ使用セリ

芳谷炭坑 石炭

位置 佐賀縣東松浦郡北波多村  
礦業種別 鑛業組合 資會社

大正三年ヨリ施工中ノ第一坑内五尺層新坑道改修工事ハ本年五十間ヲ掘進シテ八月迄ニ竣工所期ノ炭壁面ニ達シ尙引續キ採掘場擴張中ナリ又前年末落差ヲ確メタル第二坑本卸底部斷層先ハ本年三月切下ケニ着手シ年末ノ進工六十間ニシテ大正五年三月頃着炭スヘク第三坑本卸斷層先探礦ノタメ昨年着手セル假坑道切下ケハ掘進三十間ニ及ヒシモ尙着炭セサルヲ以テ其延詰ヨリ本年一月「バンドダイヤモンド」ヲ施シタルニ僅ニ二十六尺七寸ニシテ三尺層ニ着シ三十尺九寸ニシテ五尺層ニ達セリ之ヲ以テ該假坑道ヲ改修シ更ニ之ヲ掘進スルコト、シ本年二月起工九月三尺層ニ着シ十一月五尺層ニ着炭爾來採掘場擴張中ニ屬ス而シテ岸岳坑卸底部斷層先ノ探礦工事ハ昨年本卸途中ニ於テ探礦ヲ試ミ稍參考ニ資スヘキモノヲ得タルモ尙一層變化ノ狀

況ヲ明ニセンカ爲本卸詰ヨリ探礦スルコト、シ本年三月其掘進ニ着手シ年末三十五間ヲ進工セシモ未タ充分ノ結果ヲ得サリシニ依リ一時坑道ノ前進ヲ停メ延詰ニ於テ更ニ「バンドダイヤモンド」ボリリングヲ施行シ其結果ニ依リテハ更ニ地表ヨリ試錐ヲ行フ計畫ニシテ以上工事完成ノ上ハ著シク出炭ノ増加ヲ見ルニ至ルヘシ  
前年ヨリ繼續施工中ノ第一坑内排氣道(延長八百)開鑿工事ハ本年百五十間ヲ進工シテ五百間ニ達シ大正六年末落成ノ豫定ナリ又本年一月第一坑内ノ一部タル舊岸岳坑内ヨリ上記排氣道ニ通スル通風道ノ新設工事ヲ施シ五月落成セシヲ以テ從來岸岳坑内ノ第一坑排氣道ヨリ、ラト一扇風機ニ依ルコト、セリ而シテ第三坑内ノ擴張スルニ至ラハ更ニ能力大ナル扇風機ヲ同坑口ニ据付クルノ計畫ナリトス  
次ニ排水設備改良ノ爲大正三年左ノ通唧筒ノ据替ニ着手シタルカ何レモ本年二月完成セリ

設置場所		種類	馬力	排水力	設置數	設置場所		種類	馬力	排水力	廢止數
岸岳坑底	同	電動渦卷	三五	二五	二	岸岳坑底	スリースロー	一六	一六	一	一
同七層唧筒座	同	同	一五	五〇	一	同七層唧筒座	スベシヤル電動スリースロー	一〇	一〇	一	一
同	同	同	一五	五〇	一	同	同	一六	一六	一	一
十七片	同	スリースロー	一六	一七	二	同	同	一六	一六	一	一
一片	同	同	一六	一七	一	岸岳坑底	スベシヤル	一六	一六	一	一







香燒炭礦 石炭 位 置 長崎縣西彼杵郡香燒村

礦業權者 大阪舍密工業株式會社

大正三年十月着手ノ左一片斷層縫及十二月着手ノ七尺層右八片斷層縫ト共ニ豫定ノ通着炭爾後探炭坑道延長前者ハ四十間後者ハ三十間ニシテ小斷層ニ遭遇セルモ引續キ掘進中ニ屬ス又下層炭試掘ノ爲ニセル第二回坑内試錐ハ本年六月竣工ノ豫定ナリシモ錐下六百六十尺ニシテ途中ノ岩石崩レ込ミ防禦工事ヲ施セシモ充分ノ効果ヲ得サリシヲ以テ之ヲ中止セリ  
七尺層本卸斷層掘鑿工事ニ關聯セル橫島炭層トノ關係調査ハ同島ニ「ロープ、ボーリング」ヲ設置シ本年一月着手年末ニ於テ約六百尺ヲ穿テタルモ着炭セス引續キ掘進中ニ在リ大正三年ニ於テ工程約三分ノ一ヲ了ヘタル蒸汽管擴張工事ハ本年四月竣工シ尙本年左ノ通唧筒ノ据替ヘ及扇風機ヲ増設セリ

一 唧筒 本卸四目貫ニアリシ十八吋「エウパンス」唧筒ヲ休止シ水平坑道左一片ニ新調十八吋

「エウパンス」唧筒ヲ据付ケ右四目貫下ニ設置ノ「スベシヤル」十六吋唧筒ヲ廢止ス

一 扇風機 從前使用ノ扇風機ハ豫備トナシ

第二坑口ニ「キヤベル」式扇風機(排氣量一分間)ヲ新設ス

高島炭礦 石炭 位 置 長崎縣西彼杵郡高島村外一村

礦業權者 三菱會社

蟬瀬坑

本年五月ヨリ「シユラムバーカー」式手動金剛石試錐機ヲ使用シ六月ヨリ「インガール」式電動二十馬力壓氣機ヲ坑内ニ運轉シテ「プロットマン」式「インガール」式「ジャックハンマー」式足尾式ノ三

種鑿岩機ノ使用ヲ開始ス又九月ノ兩月祇先磐砒五尺層中傾斜甚タ緩ナル部分ニ於テ「ビツククイ」式棒型發炭機ヲ試用シ祇先新五尺層ニ柱房式採炭法ヲ試行セリ

祇先方面採炭區域ノ發展ニ連レ動力使用増加ノ爲本年一月九十三馬力「ランカシャー」式汽罐一臺ノ増設ニ着手シ二月完成使用ヲ開始シ又二月祇先二十九卸ヘ三十馬力直流電動機連結曳揚機ヲ五月新五尺二卸ヘ同上曳揚機ヲ各一臺設置ス尙祇先方面運搬用トシテ從來使用セシ「横置」双汽笛八吋「エンドレス」汽機ヲ取外シ直立双汽笛十一吋「エンドレス」汽機ト取替ヘタリ而シテ本年十月二子交流發電所完成送電開始セルヲ以テ祇先二十九卸新五尺層ナル三十馬力直流電動機連結曳揚機ハ更ニ交流電動機連結ニ更メ同十九卸ニ三十馬力交流電動機連結曳揚機一臺ヲ据付ケ同處ニ設置セル五十馬力直流電動機連結曳揚機ヲ交流電動機ト取替ノ上上一片ニ移設シテ同所ノ「横置」双汽笛十一吋半曳揚機ヲ取外ス等坑内運搬設備ノ面目ハ一新セルノミナラス坑内排水及局部通風用唧筒扇風機類モ殆ント之ヲ交流電動機ト取替ヘタリ

次ニ從來通風用トシテ第一第二暨坑口ニ各「ギバル」式扇風機ヲ設置シ且坑内祇先ニ「オードナンス」扇風機一臺ヲ使用シ又暨坑底及中段二箇所ニ十八吋「スベシヤル」唧筒數臺ヲ設置シテ通氣排水ヲ行ヒシカ將來坑内ノ發展ヲ豫期シ第二暨坑口ニ三百馬力交流電動機直結水壓六吋十五萬立方尺「オードナンス」扇風機一臺及暨坑底ニ七十五馬力交流電動機直結「タービン」唧筒三臺ノ設置ニ着手シ本年中唧筒ノ据付ヲ終リ扇風機ハ大正五年六月ヨリ運轉開始ノ見込ナリ

炭塵爆發豫防ノ爲坑内祇先通氣分流區域ノ入排氣路中六箇所ニ各長サ十間ノ岩粉棚ヲ架設シ又



乾燥切羽車道、風道等ニ撤水用水管全長七百間ノ布設工事ヲ起シ噴霧器、撤水、ホースヲ適所ニ設備ス水管ノ布設ハ本年末五百七十間進工シ來年早々ト先ツ完成ノ見込ナルモ切羽ノ延長新方面ノ開拓ニ連レ該工事ヲ延長スルノ豫定ナリ

前年ヨリ施工中ノ第一堅坑下一片ヲ延長シテ砥先方面ニ至ル捷路開鑿工事ハ全長二千二百尺ノ内本年末千六百六十尺進工シ大正五年中ニ完成スルノ見込ニシテ尙其後モ同一方面ニ延長シ銳意探炭スルノ計畫ナリトス

以上ノ外今後ニ於テ小型扇風機數臺ヲ坑内要所ニ設置シ通氣ノ增量ヲ圖リ且百立方呎百封度壓氣機一臺ヲ増設シ鑿岩機ノ使用ニ便セントシ目下計畫中ニ屬ス

### 二子坑

本年三月ヨリ「シユラムバーカー」式手動金剛石試錐機ヲ使用シ探炭ヲ行ヘリ從來本坑ノ探掘セル各炭層ハ目的ノ區域ニ達スル前ノ斷層群中ニ介在スルモノナルカ故ニ大正三年來十八尺層ハ略走向ノ方向胡麻五尺層ハ傾斜ノ方向ヲ探リ本年末目的區域ノ胡麻五尺層ニ着炭スルコトヲ得タルカ十八層着炭ハ來年三四月ノ頃ナルヘシ而シテ十八尺層ハ著シク變化ニ富ミ壓迫盛ニシテ炭質不良ナルカ故ニ炭況不振ノ場合ニ際シ探掘ノ不利ナルヲ認メ本年六月ヨリ坑道ノ掘進ニ全力ヲ傾注シ探炭ノ傍ヲ探掘ヲ爲スニ止メタリ

大正二年五月ヨリ第一斜坑口ヘ運搬用トシテ百五十馬力直流電動機聯結「エンドレス」機設置ニ着手シ大正三年中ノカ組立ヲ終ヘタルモ之ニ伴テ本年尙同機西方貯炭場棧橋ヘ連絡スル高架車道

(全長約三百尺)ノ布設并ニ第一水平坑道ニ十馬力直流電動機連結「エンドレス」機一臺ノ設置工事ヲ行ヒ五月完成使用ヲ開始シ專ラ實函ノ運搬ニ供セリ之カ爲第一斜坑ヲ以テ專ラ運搬坑道トナスニ至リシヲ以テ從來ノ運搬坑道タル第二水平坑道ニ裝置セル「エンドレス」機ハ之ヲ取外セリ又上記運搬設備ノ完成ニ依リ現今同島東北海岸ニ架設セル假積込棧橋ニテハ操業不便トナリ且將來出炭増加ノ曉ニ於テ搬出ヲ容易ナラシメン爲現棧橋上桁上ニ更ニ車道ヲ布設シテ二重棧橋トシ貯炭場高架車道及「エンドレス」車路ト連絡セシメ且高架車道ト地上車道連絡用「ケリーバー」ヲ設置セント企劃シ遠カラス起工大正五年七月完成ノ豫定ナリ

砥先方面及颯瀨坑動力用並ニ高島二子島坑内外點燈用トシテ大正三年八月二子島ニ起工セル五百「キロワット」交流電機二臺三菱「ネストラム」水管式汽罐二臺及附屬鐵筋混凝土煙突一基ノ設置工事ハ本年十月完成シ送電ヲ開始セリ之カ爲二子及高島ニ於ケル從來ノ點燈用直流發電機ハ順次交流配電ニ變更シ目下舊發電機ノ取外シ中ナリ選炭ハ從來「チツガー」式水洗機一臺ニヨリシカ大正三年夏期數回ノ風水害ニテ水洗場ヲ破壊セラレタルヲ以テ之ヲ取外シ本年六月第二坑口近傍ニ八馬力直立双汽筒汽機帶結「マーカス」式選炭機一臺(二十時間)ノ設置ニ着手シ七月竣成使用ヲ開始シ選炭ニ便セリ

炭塵爆發豫防用撤水管布設工事(全長六百間)ヲ起シ年末二百五十間進工大正五年早々竣成ノ見込ナリ

### 端島坑



昨年發見シ且其存在ヲ確カメ一部ノ掘進ヲ開始シタル十二尺新炭層ハ本年概先方面採掘ノ目的ニテ更ニ磐砥五尺層片磐坑道三箇所ヨリ各切下ケ坑道ヲ開鑿シ孰レモ着炭採掘ニ從ヘリ而シテ概先方面出炭増加ノ爲運搬排水用トシテ本年百馬力電氣曳揚機一臺同上五十馬力二臺十七馬力電氣、エンドレス機一臺及十五馬力以下「タービン」唧筒數臺ノ新設七呎徑「ランカシャー」汽罐一臺ノ増設並ニ電氣事業法ニ適合セシムル目的ヲ以テ現在ノ裝置ヲ改良センカ爲坑内電燈用トシテ從來二子坑内ニ設置ノ二十「キロワット」發電機ヲ概先十二尺層切下口ニ移設シ五十馬力曳揚機一臺十五馬力「タービン」唧筒二臺ノ据付工事ヲ除クノ外他ハ全部落成セリ(落成セサル曳揚機及唧筒ハ五呎層竣成)又本年炭塵瓦斯豫防ノ爲坑内ニ撒水管布設工事ヲ起シ延長約千五百十間ヲ進工セリ

次ニ大正三年取付ヲ了リ爾來試驗中ナリシ矢野式「ストーカー」裝置ハ結果不良ノ爲取外シ加工中ニ屬シ追テ再ヒ取付ケ試驗ヲ行フヘシ

尙本年七月十二尺層以下探炭ノ目的ヲ以テ同層左一片ヨリ試錐ヲ開始シ進尺百八十尺其間厚サ一尺二寸、二尺、二尺三寸、二尺七寸ナル四個ノ炭層ニ遭遇セリ

以上ノ外將來ノ計畫トシテ決定セルモノハ坑内ニ在リテハ切下坑道ノ開鑿及斷層涉等ノ目的ヲ以テ壓氣機ニ依ル鑿岩機四臺ノ使用通氣増加ノ爲五十馬力電氣扇風機ノ裝置及坑外ニ於テハ高棧橋昇降器ノ新設海岸石垣根巻工事防波堤築造貯炭場防波石垣ノ増築并ニ二百噸程度ノ選炭機試驗的設置ニシテ孰レモ遠カラズ着手ノ豫定ナリ

以上ハ各坑ニ於ケル狀況ナルモ此他共通設備トシテハ保安係員ノ瓦斯檢定眼ヲ鋭敏ナラシメン

カ爲本年二月蠟瀨坑外ニ瓦斯分析所ヲ設ケ日々坑内空氣ヲ分析ス又救命器二組ヲ設備シ日常使用ノ練習ヲ爲シ一方「ドレーカー」人命蘇生器ヲ兩島ニ設備スルト共ニ坑内要所ニ備置クヘキ岩粉ノ粉碎機ヲ蠟瀨坑ニ設備スル等瓦斯炭塵爆發ノ豫防警戒ニ努ム

松島炭礦 石炭 位置 長崎縣西彼杵郡松島村 礦業權者 松島炭礦株式會社

本島嶽下斷層心下ノ石炭ヲ採掘スル目的ヲ以テ大正三年五月起工セル本島嶽坑第一坑及第二坑ノ開鑿工事ハ着々進捗シ第一坑ハ本年八月末深サ三百三十五尺ニシテ上層タル五尺層ニ着炭シ第二坑ハ本年末百九十九尺ヲ開鑿シ來年六月五尺層ニ着炭ノ豫定ナリ而シテ第一坑ニテハ着炭後第二坑々底ニ到着ノ目的ヲ以テ同炭層ヲ掘進シツ、アリ元來本島ノ鑿坑工事ハ開鑿ニ當リ砂岩層ヨリ夥シキ出水ヲ見タル舊史アルヲ以テ工事擔當者ハ非常ノ苦心ヲ以テ豫メ周到ナル計畫ヲ爲シ本年三月我國最初ノ試ミタル「セメンテーション」法ヲ採用シテ無事出水ヲ防止シ開鑿ヲ遂行セリ

次ニ本坑内ニ三百間第三坑内ニ四百五十間ノ「エンドレス」機据付工事ハ本年八月完成シ出炭ニ便セリ又外浦鑿坑ノ出炭船積ノ便ヲ計ランカ爲同鑿坑ヨリ内浦灣迄約一哩半ノ運搬道路ヲ開キ本年五月竣成シ目下假軌道ヲ敷設馬車ヲ往來セシメツ、アルモ將來ハ電車ヲ運轉スル豫定ナリ

以上ノ外本年四月徑七尺長二十七尺ノ「ランカシャー」式汽罐二基ヲ据付テ且獨逸製六百「キロワット」ノ發電機一臺ヲ増設シ又本坑排氣口ニ「チャンピオン」式扇風機(排氣量六萬立方尺)一臺ヲ設置シ第二坑及第三坑ヨリ出ツル石炭選別ヲ改良スル爲水洗機ヲ据付ケタリ



尙未タ具體的ノ案ニハ非サレトモ將來二坑及三坑ノ探炭ニ關シテハ土砂充填法ヲ用ヒ炭柱ヲ拂  
ハントスルノ計畫アリ

崎戸炭礦 石炭 鑛業權者 長崎縣西彼杵郡崎戸村  
九州炭礦汽船株式會社

從來採掘中ノ十五尺層ノ上層ヲ探ランカ爲本年左六片六卸ヨリ切昇ヲ開始シ掘進二十三間半ニ  
シテ層高三尺ノ五尺炭ニ到着シ又十五尺以下ノ探炭ノ爲本年八月左六片三昇ヨリ金剛石試錐機  
ヲ以テ約五百尺ノ錐下工事ヲ開始シ年末ニ於テ二百三十尺餘ヲ進工セリ

右零片以上ノ石炭ハ從來「エンドレス」機ヲ以テ運搬セシカ諸種ノ不便ト障害ノ爲之ヲ「テールロ  
ブ」捲機ニ改ムルコト、シ本年三月起工シ五月竣工使用ヲ開始ス又零卸十三吋蒸汽捲ヲ電動捲揚  
機械ニ更メ坑内ニ於ケル蒸汽ノ使用ヲ全廢セリ近時出炭増加シ選炭力ノ不足ヲ感スル至リシヲ  
以テ新タニ第二ノ選炭場ヲ設ケ選炭能力ヲ現今ノ二倍ニ増加スルノ計畫中ニシテ遠カラス起工  
スヘク又増設ノ五百キロワット「發電機」ハ本年五月ヨリ使用セルモ更ニ千キロワット「發電機」一臺  
ヲ増設スルコト、シ目下其製作中ニ在リ

以上ハ福浦坑ニ於ケル狀況ナルカ淺浦坑ニ於テモ先年來工事中ノ上下豎坑ノ中下風豎坑ハ湧水  
ノ爲メ大正三年一時開鑿ヲ中止セシカ本年再ヒ之ヲ開始シ百二十餘尺ヲ掘鑿シ坑口下六百四十  
一尺ニシテ九月着炭ス上風坑ハ引續掘鑿中ニシテ近ク着炭ノ豫定ナリ而シテ本年口徑九呎高サ  
百五十呎ノ煉瓦煙突一基ノ建設ヲ了リ B 汽罐二臺設置ノ計畫中ニ屬ス

福島炭礦 石炭 鑛業權者 長崎縣北松浦郡福島村  
村井吉兵衛

大正三年來工事中ノ海面埋築工事ハ本年ニ於テ約千坪ヲ埋立テ五千坪ヲ得タルヲ以テ本年之ニ  
納屋社宅十四棟建坪四百五坪ノ建築ヲ爲セリ又「ランカシャト」型汽罐(公稱馬力)三基ヲ据付ケ使用  
ヲ開始セリ而シテ將來ハ施業上ノ動力ヲ全部電力ニ變更セントシ其第一期工事トシテ百六十「キ  
ロワット」ノ發電機ヲ設置シ現在五個ノ唧筒座中第四唧筒座ヲ廢シ第五唧筒座ニ電動唧筒ヲ据付  
ケ第三唧筒座以下ノ蒸汽ヲ廢止スルノ關係上通風ノ完全ヲ圖ランカ爲排氣量二萬立方呎程度ノ  
扇風機ヲ設備シ第二期ニ於テ第二唧筒座ヲ廢シ第三唧筒座ニ電動唧筒ヲ設置シ坑外ニ排氣量五  
萬立方呎位ノ扇風機ヲ据付ケル計畫ニシテ第一期工事ハ遠カラズ着手ノ見込ナルモ第二期工事  
ハ起工ノ時期未定ナリ

松浦炭礦 石炭 鑛業權者 長崎縣北松浦郡世知原村  
合資會社 松浦炭坑

本年二月本坑排氣道(長三十七間)ノ開鑿ニ着手シ六月坑外ニ貫通シ通風大ニ改良セラル而シテ本  
坑主要坑道ノ上磐ハ地壓ノ爲高サ三尺内外トナリ操業上非常ノ困難ヲ感スルニ至リシヲ以テ本  
年一月ヨリ高サ五尺ニ切り上テヲ行ヒ七月之カ完成ト共ニ長サ百六十間ノ「エンドレス」機ヲ据付  
ケ操業上多大ノ利便ヲ増セリ

石狩礦山 石油 鑛業權者 石狩國石狩郡石狩町  
日本石油株式會社

本礦山五ノ澤方面ニ於ケル探油井ハ其數三個ニシテ前年ト變リナキモ八ノ澤方面ニ於テハ本年  
ニ至リ廢止セシモノ三個新設完成セシモノ二個ニシテ此外本年中新ニ開鑿セシ十一號井ハ百七



十二間ニシテ出油ヲ見更ニ本年十二月第十二號井ノ掘鑿ニ着手セリ尙同方面ニ於ケル「ロータリー」式第二號井ハ深サ七百十四間ニ達セシモ遂ニ噴油並ニ瓦斯ノ噴出ヲ見ルコトナクシテ不成功ニ終レリ俊別方面ニ於テハ本年一月五號井ハ二百八十間ニシテ出油ヲ見又本年新規開鑿セシ六號八號十二號ノ三井ハ九十五間乃至百八十間ニシテ何レモ多少ノ出油ヲ見タリ而シテ現ニ掘進中ノモノハ其數三個アリ油井ハ昨年未ニ於テ九個ナリシモノ本年未ニハ十五個ヲ數フルニ至リ日産油額モ昨年未ノ十九石ニ對シ十一石ヲ増加ヲ見ルニ至レリ要スルニ本鑛山ハ目下從來ノ深掘ノ方針ヲ改メ淺掘ヲ主トシ専ラ油井ノ増加ニ努メツ、アリ

厚別鑛山 石油 位 置 日高國新冠郡高江村外一村 村 井 兵 衛

前年ボロセツ「地内ニ起工セル第一號網漏式鑿井ハ一時多少ノ噴油及瓦斯ノ噴出ヲ見タルモ本年一月深サ二百四十間ニ達シ鐵管切斷シ之カ引上ニ着手セルモ不成功ニ終リ七月之ヲ廢止セリ仍テ本年更ニ其附近ニ第二號網漏式及「ロータリー」式鑿井ヲ開始シ又「ポンセツ」地内ニ二箇所ノ上總掘式鑿井ヲ掘鑿セリ此上總掘式鑿井ハ共ニ其深サ七十間乃至九十間ニシテ多少ノ瓦斯ヲ噴出セシモ全ク出油ヲ見ルニ至ラスシテ之ヲ廢止シ又第二號井及「ロータリー」式鑿井ハ共ニ深度百間乃至百五十間ニ達シ多量ノ瓦斯ヲ噴出セシモ未タ出油ヲ見ルニ至ラス坑外設備トシテハ本年新ニ發電機ヲ設置シ多管式汽罐一臺汽機四臺ヲ増設シ尙「ポンプ」三臺ヲ設置シ此外鑛夫長屋ノ増設及工作物ノ擴張等ヲ行ヘリ

蟹田鑛山 石油 位 置 青森縣東津輕郡蟹田村 鑛業權者 石 山 茂 三 郎

大正三年中ヨリ鑿井準備中ナリシ本山ハ七月二十八日「フキパー」澤河畔ニ上總掘式鑿井ニ着手シ次テ八月十日ヨリ蟹田村大字東小國清水股澤ノ一支流ニ於テ機械鑿井ヲ開始セリ之青森縣北部油田地ニ於ケル機械鑿井ノ嚆矢トス

豐川鑛山 石油 位 置 秋田縣南秋田郡豐川村 鑛業權者 中外石油アスファルト株式會社

本年末日現在採油井ハ機械掘式三個「ロータリー」式二個ニシテ其深度ハ百三十間乃至二百九十間ニ達シ内機械掘式一個「ロータリー」式二個ハ前年來掘鑿シ本年ニ入り成功シタルモノナリ又鑿井中ニアルモノハ機械掘式一個「ロータリー」式一個ニシテ前者ハ大正五年二月後者ハ同年四月成功ノ見込ナリ尙ホ一箇所機械掘鑿井ノ計畫中ニアリ而シテ採油量ハ目下日産十八石内外ナルモ掘鑿中ノ油井成功スルニ於テハ日産百石以上ニ増加スル見込ナリト云フ

本年増設シタル設備ハ二月鑿井用トシテ「モーガル」式汽機十四馬力一臺同上十一馬力一臺「スラツ」式蒸汽唧筒二臺點燈用トシテ發電機直流式一一五「ウォールト」五「キロワット」一臺同一一〇「ヴォールト」二「キロワット」一臺及原動機トシテ汽機用外焚橫置多管式汽罐四五馬力二臺四〇馬力二臺三〇馬力一臺發電機用トシテ石油發動機八馬力一臺ナリトス

尙本鑛山ニテハ從來ノ製油場ヲ改築シテ四月ヨリ左記設備ニ變更セリ

- 三 蒸餾釜
- 三 餘熱槽
- 三 分餾器
- 四 複式高壓機械唧筒
- 三 冷却槽
- 四 貯油槽



十五馬力石油發動機

一

アスファルトタムクローラー

二

蒸餾装置ハ一箇月原油約三千石ヲ處理シ得ヘシ

黒川鑛山

石油 位 置 秋田縣南秋田郡金足村 瀨業權者 日本石油株式會社

大正四年中掘鑿セシ坑井ハ「ロータリー」式十號乃至三十二號ニシテ三十一號ヲ除ク外ハ何レモ深度二百十間乃至三百間ニテ成効セリ内十五號井ハ五月成効ト同時ニ日産四百八十石ノ原油ヲ噴出シタルモ同月汲油装置ニ改メ日産百十三石アリ十六號井ハ四月下旬成効シ一時多量ノ瓦斯ニ伴隨シテ日産二百石ノ原油ヲ噴出シ十七號井ハ五月成効以來同二百八十石ノ自噴ヲ繼續シテ十一月月上旬ニ達シタル際唧筒汲揚ニ改メ日産二百九十九石アリ又二十三號井ハ八月成効ト共ニ同五百五十石ヲ自噴シ十一月ニ及ヒ二十八號井モ十月成効當時ハ二百四十石ヲ自噴スルノ盛況ヲ呈シ大正三年五月大噴油ヲ以テ著名ナリシ五號井カ四月中自噴停止ノ後「セメント」水留ノタメ採油量著シク減少シタルニモ關ハラズ全體ノ採油量ハ毫モ減退スルコトナク日産約二千六百二十石ヲ有シ今後鑿井ノ成効ト共ニ産額増加ノ傾向アリ尙ホ大正三年八月以來自噴繼續中ニアリシ八號井ハ十一月ヨリ唧筒汲取ニ改メ日産二百五十石ヲ採油シツ、アリトス現時操業ニ屬スル坑井左ノ如シ

採油ノ坑井

網掘式

一五

「ロータリー」式

三〇

掘鑿中ノ坑井

「ロータリー」式

一

網掘式

一

掘鑿計畫中ノ坑井 「ロータリー」式

一

黒川鑛場ヨリ土崎製油所ニ至ル送油設備亦改善ヲ加ヘ八月新ニ「ウキルソンスナイター」式蒸汽唧筒八百馬力一臺ノ据付ヲ起工シ十二月完成直ニ運轉ヲ開始シタルカ其輸送力ハ一時間千石(從來ノ約二倍)ニ達スル見込ナルヲ以テ操業順調トナラハ從來使用セシ送油唧筒ヲ豫備ト爲スヘシト云フ又黒川鑛場ヨリ土崎製油所ニ至ル新設ノ郡道(産業道路ト稱ス)中黒川ヨリ縣道飯島間ノ開鑿ハ一月起工シ十月ニ至リ完成ヲ告ケ其間約六哩ノ鑛業用輕便軌道ヲ布設シタル爲メ運輸交通甚タ便利トナレリ坑井掘鑿、採油、送油其他ノタメ増設シタル設備ハ左ノ如シ

外焚多管式汽罐

二

「ガリシヤ」式汽機

二

外焚多管式汽罐 一(据付中)

旭川鑛山

石油 位 置 秋田縣南秋田郡旭川村 瀨業權者 日本石油株式會社

土崎港所在ノ鑛山附屬秋田製油所ニ於テ大正三年十一月以來据付工事中ニアリシ露國式連續蒸餾釜百五十石入五個ノ内四個ハ同年十二月完成其他ノ一個及附屬冷却槽二個ハ本年十月竣成ヲ告ケ製油ヲ開始スルニ至レリ而シテ之ト同時ニ半製品用トシテ更ニ三百石入「タンク」五個、原油用トシテ千石入「タンク」一個ヲ建設スルノ外送油用トシテ「ウオーシントン」式唧筒五個、ナシヨナル式唧筒一個ヲ増設シ之カ原動機トシテ外焚多管式汽罐三十馬力一臺、五十馬力一臺ヲ増設セリ以上擴張工事ノ結果左ノ如キ大規模ノ製油設備トナルニ至レリ

種類

個數

工程

蒸餾釜

一七

四千二百石



洗滌槽	一	三、二八〇	石
「タンク」	七四	五三八、三〇〇	
汽罐	一〇	八八〇	馬力
石油發動機	四	五八	
汽機	一	一五	
唧筒	四〇	四〇〇	
發電機	一	一七	キロワット

又製品輸送用トシテハ大正四年十一月雄物川驛ヨリ製油所ニ至ル間一哩三十七鎖ノ専用鐵道線路ヲ布設シ非常ニ便利トナリタル爲メ爾來油槽車ヲ増加シ當所々屬百四十六臺積込總量二千七噸同社新潟方面所屬九十三臺千七十四噸合計二百三十九臺三千八十一噸ヲ運轉シテ各地ニ送油スルコトヲ得ルニ至レリ其他海運ニ使用スル油槽汽船ハ左ノ如シ

鹿丸	五六七噸
廿八永田丸	六七五噸
千代田丸	一、六九八噸

秋田縣試掘權發給 石油 礦業權者 寶田石油株式會社  
 第一五五號  
 一月十四日外焚多管式汽罐一臺ヲ設置シ綱索掘鑿井ヲ試ミシモ七十八間ニシテ湧水ヲ見且ツ頗ル傾斜ノ急ナル砂層ニ遭遇シ深度百四十六間ニ達スルヤ一晝夜四百石餘ノ出水ヲ見タル結果遂

ニ九月二十三日一旦休止スルニ至レリ然トモ將來更ニ「ロータリー」式ニ變更シテ鑿井ヲ繼續セントシ既設汽罐ト同型同大ノモノ一臺ノ増設工事中ナリ

西山礦山 石油 礦業權者 新瀉縣刈羽郡二田村外一町二村 日本石油株式會社

本礦山ニ於ケル揮發油採取事業及同山附屬直江津製油場ニ於ケル石蠟製造事業ハ本邦ニ於ケル嚆矢ニシテ前途ニ多大ノ望ミヲ囑シ銳意本業ノ發達ニ腐心セリ而シテ前者ハ油井ヨリ原料ニ適スル濕質弱勢ナル天然瓦斯ヲ集合シ之ヲ蒸汽壓縮機ニ導キテ壓縮シ更ニ冷却裝置ニヨリ三段ニ冷却シテ液化セシメ揮發油ト爲スニアリ現今ニ於テハ一日間ニ六十萬立方呎乃至百萬立方呎ヲ壓縮冷却シテ比重ヲ異ニスル三種ノ液化「ガソリン」二十石乃至四十石ヲ製出セリ又後者ハ重油脫蠟ノ目的ヲ以テ精製白蠟ヲ製出スルモノニシテ近時著シク需用ヲ増加セル蠟燭原料醫藥原料香料集用電氣絶緣用等トナシ併セテ機械油原料タル重油中ノ蠟分ヲ去リテ其品位ヲ良好ナラシムルニアルモノトス

西山礦山 石油 礦業權者 新瀉縣刈羽郡二田村外一町三村 寶田石油株式會社

本礦山ニ於テハ日本會社ノ「ガソリン」採取ノ成績良好ナルニ鑑ミ三月中旬事業ヲ開始シ現今一晝夜ニ五十萬立方呎ヲ壓縮冷却ス  
 又近時水壓循環鑿井法ヲ發明シ本山ニ試行セリ此方法ハ「ロータリー」式及綱掘鑿井法ノ長所ヲ併用シタルモノニシテ即チ掘鑿ニハ衝擊力ヲ應用シ坑壁保護及掘屑ノ排出ニハ「ロータリー」式ヲ應用シタルモノナリトス



赤井川鑛山 硫黄 鑛業權者 渡島國茅部郡根法華村

本鑛山ハ本年九月木直鑛山ト共ニ三井鑛山株式會社ノ有ニ歸セシカ十一月初旬ヨリ製鍊釜三臺(尙一基新築中)ヲ以テ製鍊ヲ行フト同時ニ赤井川上流ニ上總掘式試錐ヲ開始シ其深サ既ニ七十四尺ニ達セルカ更ニ百八十尺ニシテ着鑛ノ見込ナリ

三井岩雄登鑛山 硫黄 鑛業權者 後志國磯谷郡南尻別村 三井鑛山株式會社

本年ニ於テ第二岩雄澤ハハ從來ノ運鑛隧道延長二百間ノ磐下ケヲ爲シ左側ニ排水溝ヲ設ケ第一第二支線坑道ヲ開鑿シ以テ運搬ノ便ヲ講セリ又例年十一月以降採鑛製鍊ノ冬季稼業ヲ中止セシモ本年ハ之ヲ繼續セシメ爲メ運鑛軌道延長三百五十間ノ輸車路冬圍ヲ設ケ又仁世古製鍊場ニハ燒取釜二基ヲ増設セリ元山蒸汽製鍊ハ其後鑛質ノ變化ニ依リ漸ク斯種製鍊ニ適セサルニ至リタル爲メ製鍊釜六基ヲ廢止シ目下十六基ヲ以テ操業シツ、アリ

奥尻鑛山 硫黄 鑛業權者 後志國奥尻郡奥尻村

本年ニ入り露天掘ハ益順調ニ進捗シ前年坑内自然發火ヲ起セシ箇所モ既ニ大半採掘シ去ラレ出鑛量亦大ニ増加シ爲ニ其産額モ昨年ニ比シ一割強ノ増加ヲ見ルニ至レリ此外上總試錐機二臺ヲ用ヒテ諸所ニ探鑛ヲ行ヒ又製鍊法ニモ種々改良ヲ加ヘ以テ製品ノ增收ト燃料ノ節約ヲ圖リ且製鍊窯一基ヲ増設セリ

幌別硫黄山 硫黄 鑛業權者 小樽國有珠郡壯瞥村

現今採掘シツ、アルシロト稱スル鑛床ハ其廣袤東西約六百尺南北約四百尺ニシテ其厚サ一定セ

サルモ最モ厚キハ三十尺ニ達ス而シテ探鑛ハ一番坑道及三番坑道ノ二坑道ニ於テ重モニ之ヲ行フ此等兩坑道ハ共ニ東西ノ方向ニ掘進シ現時其延長何レモ約八百尺ニ達セリ將來ハ三番坑道地並ヨリ約百尺ノ下底ニ新ニ坑道ヲ開鑿シ延長千五百尺ニシテ前記鑛床ニ着鑛セシメ以テ探鑛ヲ行フ豫定ナリ

製鍊ハ總テ燒取法ニ依リ製鍊窯ハ元山ニ十五基幌別鑛山ニ十九基此製鍊元鑛ハ元山ヨリ約二里ノ間鐵索ニ依リテ之ヲ運搬スヲ備ヘシカ本年十一月ニ至リ元山ニ於テ更ニ五基ノ燒取窯ヲ増設セリ

碓ヶ關鑛山 硫黄 鑛業權者 秋田縣北秋田郡矢立村外一村

探鑛ノ結果益々良好ナルヲ以テ一月選鑛場十五坪一棟製鍊場二十四坪一棟燒取釜十枚一基ヲ建設シ硫黄製鍊ヲ開始シ副業トシテ八月ヨリ二硫化炭素ヲ製造セリ

赤倉鑛山 硫黄 鑛業權者 秋田縣北秋田郡山瀬村 代表者 合資會社中村商店

本年ニ入り先年來使用中ノ本山特有製鍊ニ改良ヲ加ヘ益々生産ノ増加ヲ計リタリ即チ十月上部製鍊場内ニアル堅釜二基ヲ廢スルト共ニ下部製鍊場ノ西方約三十間ノ地點ニ製鍊場ヲ新設シ内徑一尺四寸高サ十尺ノ鑄鐵製堅釜十個ヲ以テ一基トセル改良製鍊爐四基ノ据付工事ニ着手明年四月全部竣成ノ豫定ナリ又不良製品並ニ屑硫黄精製用トシテ大正三年六月以來試驗中ナリシ燒取釜ハ其成績良好ナリシヲ以テ改造擴大ヲ計リ十月從來ノモノヲ廢止シ新ニ選別及燒取製鍊場ヲ開設シ徑三尺ノ球狀釜裝鑛量六十貫十個ヨリ成ル燒取釜一基ヲ設置セリ



菅澤鑛山 硫黃 鑛業權者 梅手縣神貫郡湯口村  
 從來鉛山元間一里半餘ノ山道ヲ牛馬背運搬ニノミヨリタリシカ昨秋來ノ道路改修工事竣成シテ  
 三月以降山元迄馬車ノ開通ヲ見ルニ至リ運賃ノ低減ヲ來セルノミナラス運搬上至便ヲ感スルニ  
 至レリ

松尾鑛山 硫黃 鑛業權者 松尾縣鑛業株式會社

今春鐵索終點畑寄木間四哩ノ軌道ヲ布設シテ運搬上ノ改良ヲ斷行シ進シテ同終點ヨリ好摩停車  
 場ニ至ル三哩間ノ延長工事ヲ企畫シ以テ山元以下全部鐵索若クハ軌道ノ便ニ寄ラントス

烏澤鑛山 硫黃 鑛業權者 宮城縣栗原郡烏崎村外一村  
合資會社 硫黃商會

處理鑛量漸次増加シ來リ從來ノ製鍊設備ヲ以テハ不充分ヲ告グルニ至リタルヲ以テ舊製鍊場及  
 ヒ新設製鍊場内ニ熔解釜各一基宛ヲ増設シタリ

荒雄嶽鑛山 硫黃 鑛業權者 宮城縣玉造郡鬼首村  
三井鑛山株式會社

本年十月現鑛業權者ノ入手以後採鑛並ニ事務ノ整理ヲ行ヒ形山及鳴子ノ兩製鍊所ニ於テ燒取窯  
 各二基ヲ増設セリ

小倉硫黃鑛山 硫黃 鑛業權者 群馬縣吾妻郡六合村  
三

本山ハ十月以來製鍊ヲ開始シ本年中硫黃品位九九%ノモノ十六萬九千九百七十一斤ヲ製出セリ  
 製鍊ハ燒取法ニシテ目下使用中ノ釜一基アリ(釜六個)一基トス尙三基建設中ナリ其裝置左ノ如  
 シ

燒取釜 鑄鐵製ニシテ内徑二尺四寸高四尺五寸

冷却器 鑄鐵製ノモノ内徑二尺六寸長二十四尺一

煙突 鐵板製ニシテ内徑七寸長二十四尺一

ラサ島鑛山 燐 鑛業權者 沖繩縣島尻郡沖大島東島  
ラサ島燐礦株式會社

從來通信機關並ニ貯鑛棧橋ノ設備不十分ニシテ事業ノ經營ニ非常ノ不便ヲ感シ來タリシヲ以テ  
 本年其筋ノ認許ヲ得且其保護ノ下ニ無線電信局ヲ特設シ之ニ伴フテ無線電信其他ノ電力供給ノ  
 爲瓦斯發電機一基ヲ設置セリ又海岸ニ廣大ナル貯鑛場ヲ建設シ且ツ海岸棧橋ノ建設ニ着手シ本  
 年末既ニ混凝土橋臺ノ竣工ヲ告ケ大正五年三月架橋ノ竣成ヲ見ントス  
 此ノ外從來大塊鑛石ノ販賣ニ依リ尠カラサル不便不利ヲ嘗メ來リシヲ以テ本年六月碎鑛器ノ据  
 付ニ着手シ大正五年二月ヲ以テ竣工スヘク海岸貯鑛場乃至海岸假棧橋ニ至ル運搬軌道モ本年中  
 約三哩餘ヲ延長シ且勾配屈曲ニ改良ヲ加フル等諸般ノ設備ニ亘リ大ニ面目ヲ革メタリ



第八章 鑛 夫

大正四年六月末日現在鑛夫ノ總人員ハ二十八萬八千二百十七人ニシテ内男二十二萬七千二百六十九人、女ハ六萬九百四十八人ナリ今此等鑛夫ヲ其就業スル鑛山ノ種類ニ依リ大別スルトキハ金屬山ニ就業スルモノ九萬六千八百二十六人(總人員ニ對シ、石炭山ニ就業スルモノ十八萬百人(分五厘)ニ、石油山ニ就業スルモノ四千六百八十八人(同一分)其他ノ鑛山ニ就業スルモノ六千六百一十一人(同一分)ナリ更ニ之ヲ年齡ニ依リ區分スルトキハ十二歳未満四十八人、十五歳未満三千九百四十一人(總人員ニ對シ、二十歳未満四萬七千五百二十三人(同一分)六)二十歳以上二十三萬六千七百五人(同一分)ニシテ即チ左表ノ如シ(作業、年齡別及府縣別人員ニ) 附表第八、九表參照)

種 別	十二歳未満		十五歳未満		二十歳未満		二十歳以上		合 計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
金屬山	九	四	一一八	三七二	一一六一	三三〇〇	七〇,九〇五	九九五八	八三,二九三	一一,五三三	九六,八二六
石炭山	二	二	一三四	一,一〇三	一九九五	一一,三五六	一一,四三三	三三,〇三八	一三,六一三	四六,四八七	一八〇,一〇〇
石油山	一	一	一	一	二〇六	一九	四,四三三	二二	四,四五〇	二三〇	四,六八〇
其他	二	一	六七	一八	四八四	一〇三	五,三六〇	五七七	五,九一三	六九八	六,六一一
計	二三	二六	二四五〇	一,四九二	三一,八六六	一五,六五七	一九三,九三二	四三,七七四	二二七,二六九	六〇,九四八	二八八,二一七



第九章 鑛山變災事故

大正四年中ニ於ケル鑛山ノ變災事故ハ其總回数十四萬八千八百六十八回ニシテ之カ爲メ死亡者八百四十七人、負傷者十四萬九千二百二十九人ヲ出セリ之ヲ前年ニ比スレハ回数八千五百五十三回、死者九百一十一人、負傷者八千百十五人ヲ減少セリ

年次	回数	死 亡		負 傷		員 計
		死	亡	負	傷	
明治三十九年	六、六〇〇	七六三	六五二九	七、三八三		
同 四十年	一三、三九一	五八一	一三、四〇九	一三、九九〇		
同 四十一年	一四、七三三	三三五	一四、七四三	一五、〇五七		
同 四十二年	一四、八〇三	六七三	一四、六六三	一五、三三五		
同 四十三年	一五、〇一九	四三五	一四、七三三	一五、一五七		
同 四十四年	三三、七三三	六三九	三三、一七三	三三、八一二		
大 正 元 年	三一、〇三〇	九八九	三〇、七四七	三一、七三六		
同 二 年	一三四、四五五	七三〇	一三四、七八三	一三五、五一一		
同 三 年	一五七、〇三二	一七五八	一五七、三四四	一五九、〇〇三		
同 四 年	一四八、八六八	八四七	一四九、二二九	一四九、九七六		



今年年中ノ變災事故ヲ地表、地下ニ分ツトキハ地表ニ於ケルモノハ其回数三萬四千餘回ニシテ死亡者九十三人、負傷者三萬四千餘人ヲ出シ又地下ニ於ケルモノハ十一萬四千八百餘回ニシテ死亡者七百五十四人、負傷者十一萬四千九百餘人ヲ出セリ而シテ變災事故回数ノ最モ多カリシハ地表ニテハ機械ニ因ル變災事故ニシテ又地下ニテハ落磐、坑車ニ因ルモノ最モ多シトス更ニ此等變災事故並ニ瓦斯炭塵爆發ニ因ルモノニ就キ最近五箇年間ニ於ケル各回数及死亡者數ノ割合ヲ見ルニ左表ノ如シ

年次	落磐		坑		車		器械ノ爲メ		瓦斯炭塵爆發	
	回数	死亡數	回数	死亡數	回数	死亡數	回数	死亡數	回数	死亡數
明治四十四年	八〇五八	三三三	三三〇	三六三	〇九七	三九	〇六一	〇二四	〇三三	〇三三
大正元年	九六四	二五九	三五二	二五八	四三	四一	〇二九	二九	〇二九	〇二九
同 二年	四二一五七	三〇六	二七〇	三六九	一〇七	四〇	〇五五	一三	〇一六	二六
同 三年	四七九	二八五	一四七	一五七	一〇〇	五七	〇三三	三三	〇一八	四七
同 四年	四八〇二	三〇二	二七七	三二七	〇九七	八三	〇九九	〇二四	〇〇七	三三
計	三三〇〇	一三三三	一三〇四	一三〇四	三九	三九	一四	一四	三六	三六

次ニ鑛業ノ種類ニ依リ變災事故ニ因ル死亡者ト就業人員トノ割合ヲ見ルニ左表ノ如シ

年次	金 屬		石 炭		山		其他ノ非金屬		合 計	
	就業人員	死亡數	就業人員	死亡數	就業人員	死亡數	就業人員	死亡數	就業人員	死亡數
明治四十四年	七四、四八	二五	一六九	一四五、五八	四九九	三四二	八四九三	一七	二〇〇	二三八、一五八
計	二五	二五	一六九	一六九	四九九	四九九	八四九三	一七	二〇〇	二三八、一五八

左ニ大正四年中ニ於ケル變災事故細別表ヲ掲ク

年次	同 年	同 年	同 年	大 正 元 年
就業人員	九六、八二六	九四、七六三	八三、一三三	七五、六六三
死亡數	一六八	一六八	一六二	一三〇
其他ノ非金屬	一七四	一七七	一九七	一五九
死亡數	一八〇、〇〇	一八七、一八	一七三、六九	一五三、五二
其他ノ非金屬	六五四	一五三	五〇七	八六〇
死亡數	三六三	八四一	二九四	五六四
其他ノ非金屬	一一、三九二	一一、三九二	一〇、五七七	八、六三三
死亡數	二五	一八	六二	九
其他ノ非金屬	二、二一	一、四三	五七六	一、〇四
死亡數	二八八、二七	二九四、四一	二六五、三九	二二六、八一
其他ノ非金屬	八四七	一、七五八	七三〇	九八九
死亡數	二九四	五九七	二七三	四一八

大正四年中鑛業上死傷人員表

坑 内 地 表	事 由 別	回 數	死 亡		重 傷		輕 傷		合 計	
			礦 夫	其 他	礦 夫	其 他	礦 夫	其 他	礦 夫	其 他
金	落 磐	三六二	四	一	一	一	一	一	一	
	捲 揚 超 過	一	一	一	一	一	一	一	一	
屬	鑽 又 ハ 繩 切 斷	二	一	一	一	一	一	一	一	
	捲 揚 臺 = 依 リ 昇 降	九	二	一	一	一	一	一	一	
山	捲 揚 坑 道	四	三	一	二	一	一	一	一	
	坑 車	一、一九二	一	一	一	一	一	一	一	
器 械	破 裂	八	二	一	一	一	一	一	一	
	空 息	一	一	一	一	一	一	一	一	
山	器 械	一、九	三	一	一	一	一	一	一	
	器 械	一、九	三	一	一	一	一	一	一	
計		三、六二	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	一、一	







第九章 礦山變災事故

總計	山屬	
	合計	計
一四八六六	三三〇三	三六九
七五二	九	三
六六	一四	七
五六五	二五	一四
五五	三	七
一四七五五	三二五〇	三五三
四七四	二四〇	三八
一四七〇二	三二七四	三五八
四六五	三〇	三三

三九四

大正五年十一月二十八日印刷  
大正五年十一月三十日發行

農商務省鑛山局

發行者 小川 邦 孝  
東京市京橋區瀧山町七番地

印刷者 西畑 龜 次 郎  
東京市京橋區瀧山町七番地

印刷所 東京製本合資會社  
東京市京橋區瀧山町七番地  
電話新橋 七七七  
九九九  
七六五



4 3A-91

東部彩色山嶺

1. 東部彩色山嶺  
 2. 東部彩色山嶺  
 3. 東部彩色山嶺  
 4. 東部彩色山嶺  
 5. 東部彩色山嶺  
 6. 東部彩色山嶺  
 7. 東部彩色山嶺  
 8. 東部彩色山嶺  
 9. 東部彩色山嶺  
 10. 東部彩色山嶺  
 11. 東部彩色山嶺  
 12. 東部彩色山嶺  
 13. 東部彩色山嶺  
 14. 東部彩色山嶺  
 15. 東部彩色山嶺  
 16. 東部彩色山嶺  
 17. 東部彩色山嶺  
 18. 東部彩色山嶺  
 19. 東部彩色山嶺  
 20. 東部彩色山嶺  
 21. 東部彩色山嶺  
 22. 東部彩色山嶺  
 23. 東部彩色山嶺  
 24. 東部彩色山嶺  
 25. 東部彩色山嶺  
 26. 東部彩色山嶺  
 27. 東部彩色山嶺  
 28. 東部彩色山嶺  
 29. 東部彩色山嶺  
 30. 東部彩色山嶺  
 31. 東部彩色山嶺  
 32. 東部彩色山嶺  
 33. 東部彩色山嶺  
 34. 東部彩色山嶺  
 35. 東部彩色山嶺  
 36. 東部彩色山嶺  
 37. 東部彩色山嶺  
 38. 東部彩色山嶺  
 39. 東部彩色山嶺  
 40. 東部彩色山嶺  
 41. 東部彩色山嶺  
 42. 東部彩色山嶺  
 43. 東部彩色山嶺  
 44. 東部彩色山嶺  
 45. 東部彩色山嶺  
 46. 東部彩色山嶺  
 47. 東部彩色山嶺  
 48. 東部彩色山嶺  
 49. 東部彩色山嶺  
 50. 東部彩色山嶺  
 51. 東部彩色山嶺  
 52. 東部彩色山嶺  
 53. 東部彩色山嶺  
 54. 東部彩色山嶺  
 55. 東部彩色山嶺  
 56. 東部彩色山嶺  
 57. 東部彩色山嶺  
 58. 東部彩色山嶺  
 59. 東部彩色山嶺  
 60. 東部彩色山嶺  
 61. 東部彩色山嶺  
 62. 東部彩色山嶺  
 63. 東部彩色山嶺  
 64. 東部彩色山嶺  
 65. 東部彩色山嶺  
 66. 東部彩色山嶺  
 67. 東部彩色山嶺  
 68. 東部彩色山嶺  
 69. 東部彩色山嶺  
 70. 東部彩色山嶺  
 71. 東部彩色山嶺  
 72. 東部彩色山嶺  
 73. 東部彩色山嶺  
 74. 東部彩色山嶺  
 75. 東部彩色山嶺  
 76. 東部彩色山嶺  
 77. 東部彩色山嶺  
 78. 東部彩色山嶺  
 79. 東部彩色山嶺  
 80. 東部彩色山嶺  
 81. 東部彩色山嶺  
 82. 東部彩色山嶺  
 83. 東部彩色山嶺  
 84. 東部彩色山嶺  
 85. 東部彩色山嶺  
 86. 東部彩色山嶺  
 87. 東部彩色山嶺  
 88. 東部彩色山嶺  
 89. 東部彩色山嶺  
 90. 東部彩色山嶺  
 91. 東部彩色山嶺  
 92. 東部彩色山嶺  
 93. 東部彩色山嶺  
 94. 東部彩色山嶺  
 95. 東部彩色山嶺  
 96. 東部彩色山嶺  
 97. 東部彩色山嶺  
 98. 東部彩色山嶺  
 99. 東部彩色山嶺  
 100. 東部彩色山嶺



終